

令和3年5月26日

日裏 勝己町長 様

印南町教育委員会

印南町教育委員会は、令和3年4月15日に印南町立中学校適正規模検討委員会に「印南町立中学校の適正規模について」、諮問を行っていましたが、令和3年5月26日に「教育委員会の考えを支持し、4校を1校に統合すること、新設校を設置することが望ましい。」という印南町立中学校適正規模検討委員会からの答申を受け、印南町教育委員会は、臨時教育委員会を開催しました。

そこで、印南町立中学校適正規模に係る教育委員会の考えを印南町教育委員会の「印南町立中学校統合基本方針」とすることに決定しましたので、ここに町長にご報告をいたします。

印南町教育委員会統合基本方針について

児童生徒数の推移、現状の課題、アンケート結果等を参考に、現状のメリット、デメリット、統合することのメリット等、教育委員会で検討を行ってきました。「こども園が1園となったのだから、小学校、中学校とも統合してはという意見」や「中学校2校案にしてはという意見」等、貴重な意見を述べてくれていました。それらの多くの意見を踏まえた上で、印南町教育委員会において、「適正規模について」、慎重に審議してきました。

「ふるさとが人を育み、人がふるさとを創る。」「ときめく子どもたちの未来のために」という町づくりの視点や「どのような子どもを育てたいのか」という人づくりの視点にたって議論を行ってきました。「小学校の低学年は、きめ細かく丁寧に、児童の発達段階を踏まえた教育を。中学校は、将来を見据え、切磋琢磨し、生徒の自律と自立を育む。自主性、主体性を育てる教育を。」行っていくことが大切であるということで基本的な考えは全員が一致しました。

結果、教育委員会として、「小学校は、地域コミュニティの果たす役割が大きい。当分の間、現状を維持する。中学校は、校舎の津波浸水、土砂災害地域を解消し、2学級編成ができるように、町内4中学校を1校に統合する。」ことが望ましいという考えに至りました。

統合のコンセプトは、「一人一人を大切に。いなみから国際化へ ～学校・地域の活気とICT、英語教育の充実による人材の育成～」とします。

コンセプトを達成するために、現状施設では、教室等不足するとともに、ICT、英語教育の推進等、教育環境の充実のため、新設を要望します。

なお、配慮を要する事項として

- (1) 学級規模が大きくなることから基礎学力の定着のために、指導者は、生徒一人一人の生活や学力の見とりを行い、指導方法の工夫、改善を図るため、一人一人に寄り添った指導や個別的な指導を組織的に行う。
- (2) 「不登校、いじめのサインを見逃さず」、SC等配置し組織的に対応する体制を確立する。
- (3) 安全への配慮を要する生徒や生活・学習を支援するために、町学習支援員の配置を願いたい。
- (4) 特別支援教育のニーズが高まっている中で、自立と自律を育むため、個別の指導計画を作成し、一人一人に配慮した教育を進める。
- (5) 現在まで大切にしてきた地域との結びつきや連携した活動を絶やさずに、「地域とともにある学校」づくりを進める。